

平成24年度 第4回

川合市長と語り合うタウンミーティング

～ 高階地区 ～



日時：平成24年6月30日（土）

午後3時00分～4時30分

場所：高階市民センター

参加者

自治会連合会高階支会、高階公民館運営協力委員、民生児童委員協議会、高階小学校PTA、高階小学校 Jr 専門委員、高階北小学校PTA、高階南小学校PTA、高階西小学校PTA、寺尾小学校PTA、高階中学校PTA、高階西中学校PTA、寺尾中学校PTAの皆さん 59名

出席者

市長、副市長、政策財政部長、総務部長、市民部長、福祉部長、都市計画部参事、道路建設課長、学校教育部長

意見数

分類	件数	内容	頁
保健・医療・福祉	5	民生児童委員が所有する個人情報の公開	3
		保育園の待機児童対策	8
		一時保育	19
		老人会の負担金	21
		熱中症対策の放送内容	24
教育・文化・スポーツ	5	公民館職員の人事異動	3
		部活動の外部指導者	20
		給食費の未払い対策	22
		生徒児童の熱中症対策	24
		学校における環境に配慮した鉛筆の使用	24
都市基盤・生活基盤	12	寺尾地区の道路整備	3
		高階地区の公園整備	8
		狭隘道路の対策	10
		町名地番整理	10
		道路拡幅整備	13
		通学路の安全対策	13
		ボール遊びができる公園の整備	13
		運動公園の予約方法	16

		東武東上線ガード下の対策	19
		縁石が目立つような工夫	22
		道路整備	24
		雨水対策	24
産 業 ・ 観 光	3	新河岸川の舟運	3
		新河岸川の船着場	16
		畑の土砂流出対策	21
地域社会と市民生活	9	災害備蓄庫・災害備蓄品の周知	3
		県立高校の災害備蓄品	8
		藤間文化会館の更新整備	10
		災害時の帰宅困難者対策	13
		警察支所の設置	16
		自主防犯活動	21
		防犯灯	22
		防災行政無線	22
		防災井戸	22
行 財 政 運 営	1	中核市の利点の P R	21
計	35		

意見交換（要約）

《民生児童委員が所有する個人情報公開、災害備蓄庫・災害備蓄品の周知、寺尾地区の道路整備、新河岸川の舟運、公民館職員の人事異動》

意見 皆さんとてもお忙しいところ、またお休みのところ、地区のためにタウンミーティングへお集まりいただき本当にありがとうございます。

高階地区は人口が多いので、ほかの地区のタウンミーティングよりこれだけ多く集まってしまって申しわけないんですが、まずはそれをご了承していただきたいと思います。

高階地区は、前回のミーティング以来、新河岸駅を中心とした開発を非常にスムーズに進めていただいて、当地区としては、姿が見えてきたかなという状況になりましたので、非常に市長さん初め、皆様のご努力に対して感謝を申し上げたいと思います。

そういう中で、私どもとして、課題として、福祉というところ、過去10年間の人口とか、世帯数につきまして、一応10年前の平成14年のときに5万1,374名が、今5万1,821名だという状態で実質には427名が増えているんですけども、世帯数が逆に14年のときは2万175世帯だったのが2万2,528世帯、2,353世帯増えている状態です。

これを見ますと、今、言われています少子高齢化の象徴かどうかわかりませんが、いわゆる世帯数は増えているけれども、人口はそんなに増えていないと。よく中身を見ますと、子供が育ってしまうと、分かれて世帯だけが増えてくる。そうしますと、当然今の時代ですので、高齢者が多くなって、子供が少なくなってくる状態になっているという現状かなと思います。

そういう中で、一番私が思っているのは、このままいきますと、年寄りの孤立化というか、孤独化が進むであろうということの中で、今回、家族調査が行われるという中で、自治会の立場として一番今悩んでおりますのは、災害時も含めて地域内の高齢者なり、あるいは子供たちも含めた地域としての福祉をどういう形で持っていくかという、ここが焦点として、やっぱり現状としては状況がよくわからない。それには今回行われた家族調査が一つのベースになって、支会としては行動を進めていきたいというのが願いなんですけど、それには民生委員の方の職務として、守秘義務というんですが、そのために公開ができないという点があるんですけど、支会側からとすれば、全部とは言いませんけれども、特定な人間に対して、自治会長ぐらいは、どこにどういう人間がいるのか、そういう状態ぐらいの公開はしてもらえないのかな、それによ

て自治会内のこの地区にはこういうお年寄りがいるという、氏名までいなくても、人数ぐらいの状態は把握しておきたいというのが現状です。

特に、高階地域はアパート、マンションというのが非常に多いものですから、戸建ての住宅であれば非常にわかりやすいんですが、非常に出入りが激しかったりする人があるものですから、その辺のところは非常に難しいということを含めて、今回は何とかやってもらえないかなというのが一つです。

それともう一つ、そういう状態の中で防災、あるいは防犯も含めて、地域でいろいろまとまって行動しようということで、いろんな手を打ってやっています。

前回、各地区で防災訓練のことを、やり方はさまざまですが、やる中で、やはり防災の備蓄倉庫が川越市としてあるわけですね。結局、問題点として、そこに何が幾つあるのか、あるいは場所を全員が知らないと、集合場所等も、一応防災マップには出てますけど、そういうことで、終始徹底するのは何人分ぐらいの備蓄と、いわゆるどんなものがあるのか、そういうのを知りたいということです。

それともう一つ、これはハード的なものなんですが、最初申し上げました新河岸駅周辺については再開発が進んでおるんですが、今、残ってしまっているのは、寺尾地区といいまして、そのところは非常によく見ますと、孤立化する可能性がある。端的な例は地震のときと、川越市駅における踏切事故と、人身事故が発生したときに、踏切が全部とまっちゃったんです。そうしましたら、国道 254 から寺尾に入るところが、踏切がとまっちゃいますと、ガード下しか通れないですから、非常にそこに集中してしまって、動きがとれなくなったという状況が起きているものですから、逆に言うと、まず火災が起きたときに、消防自動車迂回しなければ入っていけないという、そういう状態で、例えば中に入っていくとすると、入ったはいいけど、出てくるのに、Uターンする場所がないような状況にあるという可能性があるものですから、事が起きたときは回りきれなくなるという状態の起きやすい状態になっていましたので、いろんな意味で、そういう点も含めて、実は市側として、こちらの地区に関して、今後はどういうふうな形を考えておられるかをお聞きしたいなということです。

もう一つあるんですが、もう一つは、新河岸川の舟運の問題で、高階としては、ご存じのようにいろんなものが昔からあるわけもありまして、新河岸川を主体にした歴史的ないろんな遺物、遺跡等があることをあわせて、高階として、いろんな意味で非常に重要な要素になってきたものですから、公民館事業として、そういうのを地域各地でという形で進めてきたんですが、その中で、市長さんのほうがこの間あったと思うが、昨年度の舟運の歴史で日本橋 100 年祭にあわせて船を出していただきました。

ああいう状態からして、いわゆる高階の新河岸川に対する歴史の重みがわかり、インパクトを与えたということもありまして、川越市全体に対する大もとをつくった川であるという点は、非常に高く評価されてきていますので、この地区として、それをより、極端な話は当初は5,000人しかいなかった人口が4万を超えているという状態になっていますので、10分の1しか昔ながらの人がいないと、いわゆる新しく住んでいた方に対する郷土意識を必要としていた、そういうものを含めて、これから一つの課題として地区として取り上げていきたいという点がありまして、最後に申し上げたいんですけども、それには公民館で主催事業としていただいていますので、その方を、継続性がある方の人事異動にあわせてほしいと。そうしますと、それによって、地域としては、それなりの行動がとれるという考え方で、これから地区としてどうあるべきかを検討したいと思いますので、幾つか申し上げたんですけど、その辺についてのご回答をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

市長 なかなか難しい問題がいっぱいございますが、まず、1点目の個人情報の問題ですけれども、これはもう何年も前からいろいろな地区でご要望といたしますか、ご意見が出ていることで、やっとここへ来て、災害時要援護者の名簿をこれから出す。詳細は後ほど担当部長からお話しさせていただきますが、やっとそこまでこぎつけたという、そういう状況です。

今は本当に個人情報保護法とか、いろいろなものががんじがらめになっていて、昔みたいに緩やかに、おおらかに情報を流すということが難しい面がございますが、個人情報保護法、私個人的な意見としては、少し改正をしてもらわないと、非常に使い勝手が悪くて、かつある特定のところに有利な使い方をされるような、そういうような法律ではないかなというようなことを考えていますので、これは余談ですが、そういう面からも改善もしていきたいなと考えております。いずれにしても、なるべく早くそういう隣近所で助けがいざというときに必要な人の情報というのは、やはり自治会の方、あるいは隣近所の方に出していくことが必要であろうと思っております。

それから、防災備蓄庫の場所とか、どんなものが備蓄されているのか、それにつきましては、もしまだ情報公開されてないのであれば、私は全部公開したほうが手取り早いのではないだろうかと思うのですが、これは少なくとも地元の人には知っていただいたほうがプラスになることだと思いますので、それは前向きにやりたいと思います。

それから、寺尾地区の特性といたしますか、線路と川に囲まれていると、その点については十分承知をしておりますので、いざというときに、緊急車両がどこから入って

いかなければならないのか、そういうようなことについて、日ごろからよく訓練をして、特に東上線のガードが低くて大きい車は通れないですから、そういうところを含めて、日ごろからよく、どこをどういうふうに通っていくべきかについても対応を訓練しておくというようなことを、まずはやっていきたいと考えています。

それともう一つ、舟運のこと、新河岸川に関することですけれども、おっしゃるとおりに、新河岸川の舟運というのは、川越の繁栄を築いた一つの大きな要素でありまして、歴史的なものですから、市としてもいろいろな形で宣伝して、観光の一つの資源として活用していきたいと考えていますが、まだ正直言って、具体的にこういう計画で、こういうものを広げていこうという、そこまで行き着いてないという、そういう状況ですので、これから検討を進めていきたいと考えています。

福祉部長 先ほど災害時の要援護者の情報提供関係ですけれども、今、登録希望者の皆様に登録を完了した上の通知を6月18日にお出ししております。その後、情報更新いたしまして、情報を提供させていただくと、時期としては8月か9月を予定しておりますが、この基本情報の登録完了通知の中で、登録希望をいただきました皆様の情報を各自治会及び民生委員児童委員の方に提供させていただきますということで、登録完了通知後は、するという形でありますので、災害時の要援護者の情報については、もうしばらくお待ちいただければ、情報がお手元のほうにお届けできると考えております。

総務部長 今のお話の個人情報といいますか、今、福祉部長からお話があったとおりでございまして、大分時間がかかっておりますけれども、災害時の要援護者の情報につきましては、自治会さんも含めて、ご近所で協力をして助けていただくというか、援助いただくという趣旨で情報収集をしておりますして、各個人個人の方に登録をしていただく、ご了解の上で登録をしていただくという制度でございますので、その分につきましては、自治会さんのほうも含めまして、またご近所の方も含めまして、情報提供ができるような仕組みを考えております。

今、支会長さんがおっしゃられたお話の中で、人数等を含めてというふうなお話がございましたけれども、先ほどの市長からも話がございましたが、なかなか法律、条例等の規制がございまして、ままならないのも事実でございますので、また引き続きそれにつきましてはご相談をさせていただきながら、情報提供に努めていきたいと考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

それから、備蓄品の関係でございますけれども、私もちょっと不勉強で申しわけないのですが、避難所につきましては、当然地図等でお知らせをしているところでござ

いますけれども、備蓄品につきまして、備蓄倉庫がどこにあるかも含めた形の情報というのが、私は出ていたものだと思っていたのですが、川越市内には今、13ほど市の備蓄庫がございます。この備蓄品につきましては、種々ございますので、その地域、地域で必要であろうと思われる部分のもの、それからそれぞれの地域で共用といたしますか、1カ所に集中しないような形で備蓄をしております。

ちなみに食料関係につきましては、乾パンであるとか、アルファ米であるとか、種々ございますけれども、大体现在の想定で東京湾の北部地震の災害が発生したという、まだ現状の想定でございますけれども、川越市で大体2万8,000人程度の被災者が出ると、その3食分が大体1日で8万5,000食ぐらい出ます。現状で川越市では、今全体で20万食ほど備蓄しておりますので、そういう意味では2日分強ということです。

そのほかについては、いろいろまたそのほかからの援助等もございますので、そういった部分に期待するものもございますけれども、そういった状況でございます。

それから、13カ所のうちで、高階地区にございますのは3つ備蓄庫がございます、第1備蓄庫として、高階土地区画整理事務所でございます。こちらのほうには、主に水害対策関係の発電機であるとか、土のうであるとか、ブルーシート等の資機材がございます。

高階第2備蓄庫、こちらは砂のほうにございますけれども、こちらのほうも同様に発電機、土のう、ブルーシート等の資機材がございます。

それから高階第3備蓄庫、これは藤原町にございますけれども、こちらのほうには発電機、ブルーシート等のほかに、乾パン等の食料品につきましても備蓄をしております。

それから、それぞれの小・中学校を避難場所として指定してございますけれども、そちらのほうにもそれぞれ一定量の備蓄をしております、大体食料関係、それから生活必需品関係、それから資機材、かまどセットであるとか、それからそれぞれの地域で必要と思われる、避難所で必要と思われるものがそれぞれの学校に備蓄してございます。

全体の情報を含めまして、一定程度の情報提供は必要だと考えておりますので、これにつきましては、また持ち帰らせていただいて、検討させていただきたいと考えています。

それから、先ほどのお話の中で、公民館職員の定着化といたしますか、異動の関係のお話ございましたけれども、川越市といたしましては、職員の全体を大体5年程度をめどに人事異動をさせていただいております。若い職員が一定の経験をそれぞれの

ところで積むというものが人事異動の大きな目的でございまして、職員の育成のためにも、いろいろな場所で経験を積む必要がございますので、そういった意味合いで人事異動をするというところがございますので、まことに申しわけない部分もございませぬけれども、一定期間で人事異動があるということをご了解をいただきたいと考えております。以上でございます。

市長 防災備蓄庫とか避難場所の情報については、今まであまり自治会長さんのほうに流れていなかったのであれば、これから少なくとも各自治会長さんに毎年自分の支会の中にどこが避難場所で、どこに備蓄庫があって、その備蓄庫にはどんなものがあるのかという、そういう情報を毎年流すようにします。

意見 是非ともお願いします。一つ課題なんですけど、学校の備蓄庫がありますね。その中で、県立高校が高階にはあるんですが、そちらのほうは何か詳しいことがわからないんですが、県立高校は一緒に把握されているんですか。

総務部長 県立の高校は、現在、埼玉県の方の備蓄品を備える場所として、川越高校と川越工業高校の2校を指定しておりまして、埼玉県の備蓄品が備蓄をされているという状況でございます。あわせて、川越市のほうでも一定の場所を拝借いたしまして、県立高校に備蓄をしているものもでございます。生活必需品関係、それからブルーシート等の資機材、簡易トイレ等も含めまして、お願いをして備蓄しているというところでございます。

県立高校でございますので、なかなか市立の小・中学校と違いまして、私どもで勝手にというわけにはまいりませぬ部分もございまして、その辺につきましては、また県のほうと相談をさせていただきたいと思っております。以上です。

《保育園の待機児童対策、高階地区の公園整備、県立高校の災害備蓄品》

意見 自治会長の皆さんの意見をまとめたところのご質問をさせていただきたいと思っております。2点ほどご質問させていただきたいと思っております。川越市の方向性について、ご回答いただければありがたいと思っております。

まず第1点といたしまして、保育園等の待機児童の対応について、非常に今、待機児童がかなりいるというお話を各自治会のほうから聞いておりまして、非常に保育園、幼稚園が足りないという現状で、お母さん方から苦情をいただいております。

今後の対応について、方向性についてご回答願えたらと思っております。神奈川県とか、ほかのところは待機児童ゼロを目標に今進んでいるということで、先日もテレビで大々的に放映されておりました。

それからもう1点、各地域の公園の整備についてでございます。西側の地域につい

では、東上線を挟んで西側のほうについては、南部工業広場等々かなり1人当たりの公園の面積というのは相当あるというふうにご回答をいただいておりますが、東側のほうはほとんどないということで、非常に皆さんでスポーツとか、コミュニティを図る場所がないという苦情をいただいております。これについて、どういう方向で今考えておられるのか。

余談でございますが、先ほど支会長のほうから、県立高校の防災、備蓄についてご質問がございましたが、実は具体的に名前をあげますと、初雁高校、ある方が初雁高校の職員の方にご質問をしたところ、全く備蓄がないという回答を得ているんですね。あそこは広域の場所にも指定されておりますし、避難所にも指定されている。ご近所にお住まいの市の職員の方が体育館の鍵と、それから西側の北側といいましょるか、鍵をお持ちなんですね。かなりのおたくがそこに避難をする。だけれども、備蓄が全くないということでございますので、先ほどの総務部長さんのお答えにございましたけれども、ぜひ推進していただいて、十分な手当てをしていただきたい、このように要望いたします。以上です。

市長 保育園につきましては、なかなか待機児童がゼロにならないという、そういう現実がございます。平成23年春には、4つの民間保育園に川越市内に来てもらって、建設補助を出してつくって、これで待機児童が計算上はゼロになるのかなと思っていたら、それでもゼロにならなかったという、正直言ってそういうこともございます。

今、いろいろな事情がありまして、公立の保育園を増やすというのが、経費的な問題であるとか、そういうので難しい面がありまして、民間の保育園にどんどん新しい保育園をつくってもらって、それにももちろんその建設補助も出すし、運営補助、子供さん1人当たり年間幾らというような、そういう形での補助も出しているわけですが、そういう形で待機児童対策をやっていきたいという方向性で考えております。今度、新しい川越駅西口にふれあい拠点施設という県との施設ができるのですが、その中に民間が施設をつくるという部分もありまして、その中にも保育園をつくるという、そういうような予定だということもございます。そういうような形でできるだけ保育園の数を増やしていくという方向で、待機児童対策は今順次やっているところです。

それから、公園につきましては、確かにこの地域は、川越市内の中でも一番1人当たりの公園面積が少ないところでございますが、もっともっと公園をつくらなければとに考えています。

これはまだ全く腹案というか、頭の中のプランですけれども、寺尾調節池の中を公

園化してほしいという、そういうご要望も昔からこの地域にあるということですので、それをできるだけ具体化していきたいというような、そういうことであるとか、そういう形でこの地域に公園を増やしていくと、というようなことを考えているところであります。

副市長 今、県立高校で初雁高校っておっしゃられましたね。埼玉県は、学校が高校が147校、それから特別支援学校が32か33あって、180校たしか県立関係があるのですね。それで、防災拠点校ということで、それを57校指定されたわけです。そこには、たしか20キロワットの太陽光発電と、それからかなりの量の備蓄品があります。

主に食料とか、そういうものについては、市町村にお願いするけれども、ある程度特殊な、下着ですとか、毛布とか、あるいはトイレの部分だとか、そういうものについては学校でやっている、確かそういう仕分けでやっていたと記憶をしております。

それによりまして、川越には県立高校が7校から8校ぐらいありますので、割合からいけば2校か3校ということで、広域的な防災拠点校が2校あるという認識をしております。

なぜ全部指定できないかということ、やはりお金の問題だということと、もう一つは、なかなか場所的に一定の頑丈の倉庫、これは川越市立小・中学校もそうですが、耐震化がやっと去年終わったという状況で、そういうようなところに、防災拠点校を優先的にしたということで、初雁高校には恐らくないという回答があったと思います。

県のほうにはお願いをして、防災拠点校にもっとしっかりお願いしたいということは、まずお願いしたいと考えております。ですから、ある程度拠点校にはしっかりしたものがあるといことは、ご承知賜りたいと思います。以上でございます。

《狭隘道路の対策、町名地番整理、藤間文化会館の更新整備》

意見 寺尾のことなんですけど、先ほど踏切事故と消防車の入ることについての話があったんですが、これって可能なことなんでしょうか。道路整備の予定はないんでしょうかね。何せ行き当たりばったり、迷路の部分はびっくりしています。道路事情の調査とかの予定があるのか。

あと都市整備、道路計画、中核市らしい街並みがどうかというところも気になるんですが、これにつながることをして、藤間地区、川越市は住居表示が進んできていることはわかっているんですけども、なかなか藤間までやってきません。これも先ほど都市整備、道路整備が課題があるというのはわかるんですけど、早急に課題として取り上げてほしいと思います。

それと、川越に住み始めて 25 年になるんですが、伊勢原かすみ地区と同じ市とは思えない、藤間地区の環境、市民センターは新しくなり、住民とすれば町役場の機能を十分に発揮できて、よかったな、見晴らしもよくて、畑もきれいでよかったなと思っていると思うんですが、藤間文化会館は昔の藤間の町の名残のまま漂っています。

やはり支会長さんの言われたように、避難場所、小学校とかの避難場所に行けない。地域の公民館は避難場所、あるいは一時避難所として利用される可能性が高いと思うんですが、ごらんのとおりの建物、段差、トイレも狭いですし、世帯数からすると、かなりの藤間の世帯数の割には、藤間文化会館はもう少し使いやすい、結構利用していると思うんですね。会館とすれば利用価値はすごく高いと思いますので、公民館の更新整備をどうぞよろしくお願いします。

市長 道路の整備の予定に関してですが、細かい点はわからないのですが、少なくとも砂地区であるとか、昔農地のままの農道のままの道路で両側に家が建ち並んでしまったような、そういう地域については、なんとかしなければという、そういう思いがあるのですが、正直言って、そこにどういう道路を通すとか、そういう計画は今のところ立ててないと思います。

ただ、今の状況だと、本当に大きい火事が起こったときに、大きい消防車も入れないと、消防団が使っているような小型の消防自動車しか入れないような、そういう地域がまだまだいっぱいある、それは計画的に整備をしていかなければならない、そういう計画をつくらなければと思っている、そういう段階でございます。

当面は、広い道路を都市計画道路などで予定されている道路を広げることによって、比較的近くまで大きい消防車などが入れるような、そういう体制をまずつくっていくのが先かなと、こんなことを考えています。

それから、藤間文化会館については、あれは自治会館という位置づけだと思います。公民館とはちょっと違う種類の施設でありまして、自治会館につきましては、いろいろな地域でそれぞれ地域の人々の力で建設し、運営していただいているというのが実情でございます。もちろん建設するについて、市のほうからの補助金の制度はあります。それと、例えば老人憩いの家などを併設するというのであれば、そちら方面の補助金もさらに別の形で出せるという、そういうことはあるのですけれども、いずれにしましても、一定程度地域の人がお金を集めて、それに補助金を上乗せしてつくるといふ、そういうような形をとっていただいておりますので、藤間文化会館についても、建て直したり、あるいは修理する。修理につきましても補助は出るはずですので、その辺のところを地域の人々が主体になってやっていただくという形をとっていただく

ことになると思います。

都市計画部参事 都市計画のほうから一言述べさせていただきます。

この地区は、先ほど言いましたガード下をくぐるのが、一番南側は消防自動車が通れて、真ん中にやっぱりガードがあるのですけれども、そこは通れない状態ですので、先ほど市長が申し上げたように、消防のほうで、どういう地域でどういうふうにしたらすぐそこに向かえるかという訓練はしているというふうには聞いております。

ただ、あと都市計画として唯一東上線のアンダーパスするのは、外環状線という都市計画道路がございます。ただ、この道路については、かなり広規格な道路でございますので、川越市の力でできるというものではないのですね。国の力をいただかないとできる道路ではございませんので、これについては、毎年市長名で要望を国のほうにさせていただいております。

その辺のところがうまく国とのタイアップができれば、その広規格な道路でアンダーパスができるような道路ができると考えております。

それから、私、都市計画の高階の土地区画整理事務所の所長をやっているのですが、今、エリアの整備をさせていただいております。その中で寺尾大仙波線という、やはり都市計画道路がございますので、それを順次整備していければなと考えています。都市計画としては以上です。

道路建設課長 建設部でございます。建設部のほうでは、寺尾地区のこのような狭隘な道路につきまして、生活道路として位置づけをしております、幅員7メートルを基本として整備するような予定でいます。

ただ、今、この狭隘な道路が非常に多いので、今後は警察や消防と実態を把握するためにヒアリングを行いまして、その実態に即した計画を立てて、今後は寺尾地区については整備していこうと部内では考えております。

これは、ちなみに今回のものに直接はかかわらないのですけれども、現時点で事業中のものが寺尾調整池の外周道路から東上線に向かう道路があるのですけれども、そこを一部、今年度から拡幅工事のほうをやらせていただきます。それをずっといきましたと、東上線のガード下に当たるわけですけれども、ここもやはり狭隘なガードなものですから、あと下水のほうは、雨水管をそこに通したいというのがありまして、東上線のガード下のところを概略の設計を今年度は予定しております。

現実に動いているのはそれだけで申しわけないのですが、今後は先ほど申し上げたような形で整備のほうをやらせていただこうと思います以上です。

都市計画部参事 すいません、住居表示について、ご回答させていただきます。

川越市は、住居表示というよりは、町名地番整理というものをやっております。これは住所と土地との地番が一緒になるということですね。住居表示だと別々になる可能性がありますので、川越市がやっているのは、町名地番整理というのをやっております。

ただ、これについては、やはり地元の皆さんの合意がまず第一でございます。合意をしていただいて、皆さんが町名地番やりましょうという合意ができて、ご要望をいただくということになるのですが、ご要望いただいた後に、順番に進めていくということでございます。基本的には住所が変わりますので、会社で言えば、名刺も変わったりとか、いろいろなそういう費用が伴うことは事実でございますので、皆さんのご同意があって、ご要望いただいて、整備をしていくということでございます。以上です。

《道路拡幅整備》

意見 道路の拡張のことについて、一つ質問したいんですけれども、これは寺尾の番地はつきり言います。寺尾の957 - 9番地、957 - 31、ここの道路がすごく狭いんですね。そして消防車が入ってこれないんです。もし火事が起きたとか、地震が起きた場合に、消防署に聞いたんですけれども、この地区は、ちょっと問題だなということを言われたんですよ。

私の言っているのは、もう20年前からこの話が出ているんですけれども、ここに自治会の会長が写真をもらったんですけれども、これは後でお渡ししてもよろしいです。これは、5年前にも同じように、市のほうに申告したそうなんですけれども、その後、何にも回答がないそうです。

ですから、改めてもう一度申告してくださいということを強く言われましたから、今日言いますけれども、写真をここにあります。これをお渡ししてもよろしいですよという許しを得ています。ですから、後で自治会の会長に答弁をお願いしたいと思います。以上です。

《通学路の安全対策、ボール遊びができる公園の整備、災害時の帰宅困難者対策》

意見 高階小学校のPTA会長をしております。高階地区では、5つの小学校と4つの中学校の会長さん、もしくは副会長さんが同席させていただいております。PTAのほうからご意見というか、お願いというか、出ましたので、まとめたのをこちらで発表させていただきたいんですが、先ほどから道路の話が出ますが、皆さん多数ご意見言っていらっしゃるんですが、私どもPTAのほうにつきましては、ぜひ通学路のほうの整備をお願いできないだろうかということが一番にあります。

他県におきまして、通学路において登校時の児童に車が突っ込む死傷事故、大変な事故があったのは皆さんのご記憶だと思いますが、高階地区におきましても、通学路が現状において安全な通学路かと申しますと、逆に危険な箇所が多々あるというような形で、保護者のほうは非常に心配をしておりますし、地域の方が今、朝ですとか、帰りぎわに見守っていただいているおかげで、私たちの子供たちは通学路を安全に登校できていますが、拡張という話ですとか、整備をするのであれば、ぜひ通学路を、ガードレールがないところすとか、歩道が非常に狭いところがございますので、そういったところも整備をしていただければいいなというふうに私たちは思っております。

あと、もう1点なんですけど、公園に関してなんですけれども、確かに公園のほうは非常に少ないです。子供たちの行き場所、遊び場所を考えると、本当に今の子供たちは外で昔のように思いっきり走ったりすとか、ボールを投げるといった場所が非常に少ないように思います。

公園がありましても、その公園に行ってみると、ボール投げの使用はできませんといった表示があります。子供たちは今、投げる力すとか、そういった力が必要ですので、学校でも指導していきましようということになっているとは思いますが、実際、子供たちは、下校したら、外に遊びに行くに当たり、そういった場所がないというのは、非常に残念だなと思っておりますので、こういった点におきましても、ボール遊びすとか、子供たちが思いっきり遊べる場所もぜひ検討していただけないかなと思っております。

あと、もう1点なんですけれども、先ほど備蓄に関してなんですけど、実は3・11の震災のときには、高階小学校におきまして、よく帰宅困難者の方が都内で多くいらっしまったと思っておりますが、逆に川越のほうに勤めていらっしまって、都内に帰る方が実は帰れなくて、高階小学校において一晩避難をされているということがありました。その時点で高階小学校に備蓄されている毛布すとか、そういったものを学校の先生方が提供していただけるんですが、市といたしましても、そういった帰宅困難者すとか、逆に住民以外の方が、留まる可能性もあるかと思っておりますので、その場合、高階小学校は本当に新河岸駅からすぐ近くでしたので、電車がとまったときに、そういった帰宅困難者の方が来ていただいたという例がございますけれども、川越市において、そういった対応がされているのかどうかというものを伺いたいと思っておりますので、以上、3点なんですけど、よろしく申し上げます。

市長 通学路の問題につきましては、ご指摘のように今年、関西のほうで子供さんの

行列に車が突っ込んだという、そういう大きな事故が2件ほど報道されたと思いますが、そういう報道を見ましても、できる限り早く整備をしていかなければという考えであります。ただ、予算の問題であるとか、整備をする方法についても、ガードレールをつけたり、あるいは道を拡幅するというものは、やはりお金と時間がかかりますので、最終的には抜本的な整備に向けて進めていかなければしょうがないことだというふうに思っていますけれども、当面、できることから手をつけるということで、例えば、スクールゾーンの指定をすとか、道路に「とまれ」の表示をしっかりと出すとか、いろいろ道路標識をわかりやすくすとか、そういうすぐにできることはすぐにやるように進めているところです。

最終的には、やはり歩道部分を確保するという形での通学路整備をやっていかなければと考えてはおりますけれども、まだまだといいますか、川越市内、いっぱいそういうところがございます、先週も2件ほど、南古谷のほうの道路であるとか、そういうような要望をいただいたところですが、一定程度時間がかかるということをご理解いただきたいと思います。

それから、公園の点につきましては、おっしゃるように、いろいろ公園としてつくって、遊具を設けなければならないとか、そういうようなことを考えないで、ただの広場にしておいて、子供が好きなように動き回れるような、そういう公園もあるべきだと考えますので、それはそういう公園もきちんとつくっていくよう、努力していきたいと考えています。

あと、帰宅困難者の問題については、去年の東日本大震災で初めて川越市としても、市にも帰宅困難者が発生するという、そういうことを経験しまして、本川越駅であるとか、川越駅であるとか、そういうところにたまってしまうような帰宅困難者に対しては、どういうふうにするという、そういう計画をつくりつつあると思うのですが、新河岸駅の高階小学校の件は、私初めて聞きましたので、その辺についてまで帰宅困難者の問題の中に取り込んでいるのか、何とも言えないのですが、わかりますか。

学校教育部長 川越市内で受け入れた学校は、中央小学校がかなりいっぱいありました。本川越駅と市駅のところがありますので、総数が一番多かったのは中央小学校です。あと霞ヶ関東小学校、あと富士見中、あと仙波小等、学校を開いている学校が幾つかございます。詳細までは、期間が少したっているので申し訳ございませんが、確かにそれらのことがあったと思います。

学校の職員も大分対応して、川越市内の川越工業という高校も応援してくれたようには承知しています。先ほどのような実際のところがあったと思います。

総務部長 今、お話しございました高階小がその計画にということではないのですが、現在、県内でかなり大きなエリアで帰宅困難者が出るという話がございまして、その中に川越駅も含めて、県の計画の中で県を中心とした形で駅近辺のホテルであるとか、種々関連する施設も含めて、協議をしながら帰国困難者対策をしましょうということで、今、市長がお話し申し上げた方向で検討が始まっているという状況でございます。東日本大震災で帰宅困難者が川越市で生じるということはわかったということで、対応を今後検討していこうという状況でございます。以上でございます。

《運動公園の予約方法、警察支所の設置、新河岸川の船着場》

意見 4点ほどお伺いします。第1点は、公民館において、非常に新しい施設で有効に職員も伸ばして、円滑にされていますが、質問は、運動公園の、ご承知のとおり、高階には3カ所、私が申し上げたいのは、月初めに関係団体等が公民館に並んで場所をとると、その並ぶ時間が早い人は6時前から並んで、実際に手続とれるのは8時半以降であります。早い人は2時間半ぐらい待っていると、これは冬の時期になりますと、非常に寒い、途中トイレを借りるように調整して、管理室のところをあけてもらえるようになりましてけれども、寒いと。さらに子供さんの親、サッカー場、野球場をとるために、大勢並びます。6時半ごろから並んでいる姿を見ると、子供はその間、母親がいないときに学校に行くというような状況を想定いたします。

したがって、ぜひ是正をしてほしいと。その是正は、抽選方式、8時ごろから並んで予備順番をとって、8時半前に順番取りをやって、そうすると待つ時間も短くなるということで、利点になると。

さらに、現状は、1人が2コマとれると。ちょっと細かくなりますけれども、それが代表が2人ぐらい来て、その後、7、8名、10名ぐらい、後から入ってきて割り込む、そういう状況があります。

これは、7月2日に今回は地元の市会議員の先生と一緒に現場を見てもらう。その後、市長さんのほうにしっかり申し入れたいと思っていますので、ご承知おき願います。この件は、公園整備課長も承知しております。ただ、直せないのは、この出張所、担当職員が創意工夫というか、そういう意欲が乏しいと、私は思います。

2つ目、高階といいますか、川越は犯罪が多い、特に実際には新聞で見ましたけれども、性犯罪行為が多い。言いたいのは、高階地区は交番が駅前に1つあります。この5万3,000人住んでいるところで、交番が1カ所、これは川越警察支所といったものを置くべきではないかと思うんです。そういうふうに検討された時期もありましたけれども、予算の関係、これは主管は警察のほうになると思いますが、今は、非常に

土地も下がって、川越街道は土地が結構あいています。ひとつ市のほうからも、そういうお話を公安委員会というか、警察の関係にお伝えをして、ぜひそういう安心・安全のためのそういう施設を高階に設けてほしいと思います。

第3点、先ほど舟運場の話がありました。新河岸舟運場、確かに立派な船着場ができました。ただし、あそこはその施設があるだけで、実際に地元の自治会、私どもの自治会、高砂自治会等が14年間、その新河岸川への集いということで、4月29日、14年間そういう活動をしてきました。15年目になって、去年は3・11の震災がありましたからできませんでした。だんだんと船の老朽化、船頭さんも年がいったということで、しかしぜひ舟運場を盛り上げるということを考えてほしいなど。ほかの地域のことを言っただけは申しわけないんですけれども、ふじみ野の川崎という地名があるところ、あそこには同じく福岡舟運場と昔は言いまして、最近、舟運の昔の面影を忍ぶ施設がつくられました。さらにその河川敷には遊歩道もできました。さらに博物館もあります。多少老朽化していますけれども、そういう施設もあると。ぜひ高階にも、そういう今話しました何か施策は講じられないものかなと、こう思います。

先ほど市長さんが、これから考えて、一步前進と、今まで14年間やってきて、市のほうに申しあげても、10年目にやっと市のほうから現地指導といいますか、おいでになって、本当に施策というのはやっていない、これが現況であります。せっかく市長さんは、そういう前向きな姿勢と、公正、それからさらに公平という趣旨でやっておられるから、あらゆる意味で市の職員、おおげさなことで言うと、そういうあれを徹底していただいて、一步前進してもらえればありがたいと思います。長くなりましたので、これで終わります。

市長 運動公園等の申し込みの方法につきましては、今、市では、インターネットを使って施設の申し込みをするシステムをとっているところと、それから並んでもらって申し込みをする、そういうシステムをとっているところが、両方混在しているという、そういう状況だと思います。今、おっしゃられたような、いろいろな不都合であるとか、不公平であるとか、そういうようなものが出ないような、一番理想的な申し込み方法を工夫していかなければならないとは思いますが、なかなか現実問題としては進んでいないという、そういう状況です。

それから、2番目の安心・安全の施設を高階地区につくってほしいという、そういうご要望については、もちろん警察のほうにしっかりお伝えはしてまいります。交番はもちろん地域の要望も必要ですが、やはり警察が設けるものでございますので、市のほうでは警察に要望を、住民の皆様方の要望も含めて市からの要望を伝えるとい

う、そういう形にならざるを得ません。高階地区については、自主防犯組織が割と充実しているところではないだろうか、私は認識しておりますが、今、全国的に地域の人に地域を守る活動をしてもらおうということで、自主防犯組織というものをつくってもらって、その方たちに、例えばパトロール的なことをやっていただく等、そういう工夫をしながら犯罪を減らしていくと、そういうようなことをやっておりまして、この地域は比較的その活動が活発なことであると警察などからは伺っております。もちろん、さらに犯罪を減らしていくために、交番も必要でしょうし、そういう自主防犯組織の充実も必要だと思いますので、今後も努力していきたいと思っております。

あと、新河岸川の舟運に関連する施設整備、あるいはそういうことを観光資源として活用していくという、そういう点につきましては、今までなかなか手が届いてなかった部分でございますので、今後、検討していきたいと思っております。

市民部長 運動施設の予約の関係ですけれども、私、担当部長でございませぬが、実際、施設の予約システムが4、5年前から確立しております。そのときに、運動施設についても、そのシステムの中に取り入れるかどうかということも議論させていただきました。その議論の中で、おっしゃったような意見もございました。そういう意見、極端だと夏などは前の日の5時から並んで、夜通し徹夜で並んで、また朝皆さんに来てもらってとるというような状況もございませぬけれども、ただ、大半の利用者の意見を聞きますと、やはり苦労すれば取れると、並べば取れるから、やっぱり予約で、抽選ではないという意見で、公民館は抽選ですよ。抽選する施設と、やはり並んで苦労をして取る施設に分かれていると聞いておりますけれども、この辺、いろいろなご意見があるのはわかりますので、公園整備課長のほうにもその旨、意見を伝えさせていただいて、またよりよい公平な方法でやっていきたいと思っておりますので、ご理解いただきたいと思っております。

意見 今の件、よろしくない。理由は、先ほど言ったとおり、1個団体が何コマとるとか、それであればいいんですが、1人が何コマというと、10人いれば10とか、そういうあれでなく、1個団体が幾つとると、そういうあれでもって、そういう公平さ、公正さをしておきたい。

2つ目は、確かにここも前のほうに並んでいる人は、65から70前後の朝早く起きるのは苦じゃないと、そういう人もおりました。私はもっと抽選方式のほうがいいんじゃないかと、そういうことで検討して上でね、公正にお願いします。

市長 私の印象としても、やはり並んで苦労すればとれる方式だと、比較的時間に余裕のある人と、体力のある人がいっぱいいる組織のほうが勝ってしまいますので、例

えば、子供さんにとっては、マイナスだと思いますので、それは改善していきたいと
思います。

《東武東上線ガード下の対策》

意見 私の提案は、藤間 802 番地と 402 番地をはさむ計画道路の先に、東武東上線の
ガードがあるんですけれども、ここの階段の壁にてすりをつけてほしいという要望
が、障害を持った方、特に足の悪い方に多かったんですね。それで、以前私のほうも
市議員さんなどを通して、交渉してほしいということで話はしてあったんですが、
なかなかうまく回答が得られていません。

それで、これから今後ますます高齢者も増えていくことですので、東上線の方との
話し合いもあるかと思いますが、ぜひ数カ所結構でございますので、片側に手すり
をちょっとつけていただけたら、助かると思います。

やっぱり自立支援ということを盛んにうたっておりますよね。そうなったときに、
その辺の対策として、少し考えていただけたらありがたいなと思って、提案させてい
ただきました。よろしく願いいたします。

道路建設課長 建設部でございます。現地のほうは、担当課が既に確認をさせていた
だいております。この階段は、両側にスロープが設置されておりまして、これは自転
車をおりて登ったり、おりたりするスロープと思われるので、そちらのほうに両方と
も手すりをつけてしまうと、自転車利用者の方がご不便をきたすような形になります
ので、この辺はもう少し地元の方の事情を聞いて、調整を取りながら、例えば片側だ
け手すりをつけるなり、その辺は利用される方々のご意見をもう少し聴取したいなと
いうことが担当課からの意見でありました。ですので、もしご連絡先わかれば、この
後教えていただいて、担当課のほうからまたご連絡申し上げて、手すりをどのように
設置するか、検討していきたいと思います。以上です。

《一時保育》

意見 子育てに関して、先ほど保育園の件が出ましたけれども、私、川越に来て 12
年になるんですが、とても環境はよくなったと思います。児童館も増えましたし、保
育園も確かにあちこち走っていると、とても新しい園がたくさん増えました。

ただ、変わらないのが一時保育の受け入れが川越市はとても冷たくて、他市の方の
意見等を聞くと、例えばママのリフレッシュだけでも一時保育が受けられるとか、あ
とお母さんが例えばスキルアップのために講座を受けたいので一時保育を受けられ
るとか、そういったのが川越市は冷たいところがあって、一時保育の受け入れがなか
なか進まなく、また一時保育を受け入れてくれる園も少ないと思うんです。

その辺をもうちょっと環境をよくしていただければ、お母さん方ももっとゆったりと、今、事件もたくさんあって、孤立化しているママも多いですので、ご検討いただけたらと思います。お願いいたします。

市長 ご要望承りましたので、前向きに検討させていただきます。

《部活動の外部指導者》

意見 中学校に関してなんですが、長女は無事中学校卒業しましたが、当時、中学校に入った途端、保護者会で言われたことが記憶に残っているんですが、中学校の放課後の部活ですか、部活は先生のボランティアの部分なので、ほとんど活動できない状態が多いので、部活の数が少ないと。当然のように、やる気のない先生というか、時間の余裕のない先生方が多いので、ほとんど部活も少ないですよ、どの中学校も。ということで、ほとんど部活もないので、あてはまらない生徒も出てきて、帰宅部がうじゃうじゃいるという中学が、私の知る限りでは多いのが川越なのかなと。

サッカーとかクラブチームに入れる優秀な子ども、お金のある子どもは問題ないと思うんですが、そうでない子どもに限っては居場所の問題もあるので、あぶれちゃう中学生に対してすごく心配なので、それに対しては、外部から、私たち保護者がコーチとして入り込むことも考えられるかとは思いますが、外部からそういう専門の方を入れていただいて、先生は勉強に集中していただいて、放課後の部活動に関しては、外部の方の力を入れたほうがいいのかと思っていますが、その点はどうなんでしょうか。

学校教育部長 中学校の部活動については、大体加入率が90%から大体80、学校によって違うのですが、大体部活動に入っている生徒がまだ多いと思います。

ただし、社会体育だとか、その他、クラブチームに入っているようなケースが増えてきて、川越市の現状で言いますと、それぞれの部活、学校規模の大きさに、昔の8学級、9学級規模のときには、部活動の数も結構多かったのですが、学校の規模が縮小するにつれて、顧問を持つ人数が減っています、事実。

恐らく8学級規模あったときは、かなりの部活動があったのは事実です。川越市内4学級規模ですと、相当部活の先生方、一生懸命頑張っている教員が多いと思うのですが、そうした中で、1人で部活を持って、何とか頑張っているという教員もいます。土日も行っているわけですが、とにかく子供たちのために何とか面倒見てあげなければいけないなという部分は正直あります。

先ほどの外部指導者の関係ですけれども、実は、改善策としてボランティアの方に、保険をボランティアで手伝いますよという方のために、そうした措置をとって、これ

までも部活動に応援していただく方々については、支援はしていたわけですが、そうした制度が各学校にあります。

ただ一点、中学校の部活ですから、やっぱりそれなりの教育活動の一環として、あくまでも限界があります。過度の勝利主義に入り過ぎて、いろいろな問題が起こったケースが、これまでも過去にあります。そうしたことも配慮しながら対応しているということでもありますので、ご理解いただければありがたいのですが、以上です。

《畑の土砂流出対策、中核市の利点のPR、老人会の負担金、自主防犯活動》

意見 第1点、高階は川越の中心地、市街地と違って、非常に畑が多い。これが春一番とか、雨が降った後、畑の土や道路に流れる。高階砂漠と。風が吹くとほこりがすごい。特に女性の方、顔にほこりがつく、頭に砂がつくとか、ご苦労されているのと思うんで、ぜひ担当部局、高階の公民館の南東の方向、こちら、見ていただくとわかります。道路上に赤土が流れています。風が吹くと飛びます。それで、ぜひそういうとめる芝を植えるか、草木を植えるか、畑の一番はじに、ブロックを積むのは大変でしょうから、土のうを積むか、何か一工夫欲しいなど。全部にやると大変ですから、ぜひモデル地区を指定してやってみてはいかがかなと思います。

第2点、川越は中核都市になっております。この中核都市の利点、欠点と、こういう点はいいんだなど、これが今、市としての大きな利点だなど、そういうのは、十分理解できません。ぜひそういうPRをお願いしたい。

私は、高階地域の老人会クラブ単位の会長をやっていますが、県のほうに負担金を出します。これが一番末端のそういう支部からも出すと、説明はおわかりかと思いますが、川越支部で出す。本来であれば、中核都市クラスになったら、川越市がまとめて県のほうに出すと、こういうのができるんじゃないかなと。中核都市を無視されているのかなと、こんな感じもします。

ちなみに、皆さんご承知してほしいのは、老人会の埼玉県の県の本部は予算が4千3、4百万ですかね、そのうち各老人会からの上納金が2千万近く。職員が3人、これは天下りの職員ということで、約半分近くがそれに使われていると。

言いたいのは、その使い方もさることながら、中核都市というのは、例えば、川越市の老人クラブがまとめて市に何らかの提出するのはわかりますけれども、末端のほうで全部出すというシステムはおかしいなど、ぜひまた機会あったら、関係部署から埼玉県の方に調べてほしいと思います。

第3点、先ほど防犯について、自主防犯はこの地域は非常によくやっている、うちの地域、高砂は、地域では一番やっているんじゃないか、こういうふうな自負をし

ております。犯罪が数年前、年に7、8件あったのが、今はほとんどない。最近は1、2件、ひたたくり1件、空き巣1件、その防犯活動を進めてからは、相当減りました。

さっきちょっと失言で、川越の性犯罪が多いというので、警察署をこちらのほうへ支所を置いてくれと、これは特に夜間、という感じです。以上です。

市長 ご要望とご提案ということで承っておきますので、ご承知おきください。

《給食費の未払い対策、防犯灯、縁石が目立つような工夫、防災行政無線、防災井戸》
意見 まず第1点なんですけれども、こども手当の使い道のことをお伺いしたいんです。今、給食費の未払いのご家庭が大変多いということでありまして、小・中学校のほうの給食が1学期に1日ずつ少なくなりました。それで、支払っているにもかかわらず、1日減少ということで、子供たちが大変おなかをすかせて帰ってきたりしているので、できればこども手当を未払いの方の分をこちらから引き落とすというような形、もしくは給食費に充当させて給食費をもう少し安くするとか、無料化するというような形で何か手を打っていただけないかということが一つです。

次に、防犯のことにに関してなんですけれども、私が住んでいます稲荷町地区、街灯が大変少ないです。それで、子供たちが通ります通学路ですか、そちらのほうに縁石がございまして、その蛍光塗料がはがれておりまして、夜間に自転車等で走りますと、ライトが当たっても縁石の確認がなかなかできません。ということで、車が来て、ちょっとよけたりしますと、縁石に乗り上げて事故になるおそれがあるんですね。その辺の改善をやっていただきたいということがあります。

それから、防災放送なんですけれども、こちらのほうも私の住んでいる地区は、時間差で混濁してしまいまして、うまく聞き取ることができません。これから防災なんかがありますと、車ででも乗って回って、いろいろなことをお伝えするというのも難しくなるとお思いますので、その辺の整備をきちんとしていただきたい。

それから、私の友達に茨城県の鹿嶋に住んでいる者がおります。神栖地区というところなんですけれども、そちらの小学校の教員をしているお友達がいます。あそこところは、ご存じのとおり、3月11日の震災で地盤が液状化しまして、子供たちが入学式で学校に通ってくるのも、水道管、下水管がすべて使えなくなってしまったそうです。小学生の子供たちですから、おトイレということもなかなかまんすることもできず、お風呂に入ることもままならないような状態だったそうです。

そのときに、入学までに学校のほうで何を対応しようかということになったときに、井戸をつくるということが第1条件だったそうです。上福岡の昔の霞ヶ丘団地というところが、今回新しくなりまして、そちらの団地のところにポンプ式の井戸がで

きております。そういったものが普段のときには飲み水としては使えませんけれども、緑の多い街というようなことで、植木にあげたりとか、それから子供たちが外から帰ってきたときに、足を洗ったり、運動靴を洗ったりするような水に使われているようです。

そういったことで、防災のことに関してですから、今後は川越市のほうでもそういった施設を設けるとか、または自治会や公園、そういったところに水道施設というものはぜひ衛生面には影響が出るかと思しますので、お考えいただきたいと思えます。以上です。

学校教育部長　こども手当の関係は10月から一斉にされるということで、確か未納体制ということで、いろいろな形で今の部分は検討させていただきたいと思えます。確かにそうした支援は必要だという部分もありますので、いろんな策は必要だと思えます。可能な範囲でまたいろいろ対応はあると思えますので、よろしくをお願いします。

給食日数ですけれども、先ほど回数が減ったとのことですが、実は、休日とか土日の関係で、合計の日数が年度によって変わってくるのですが、その前の授業日数の確保ということで、川越市として検討させていただきまして、今年から開校記念日は授業日になっています。

もう1点、恐らく4月の当初は違うのですけれども、年間で2日間の給食を増やしていこうということをしています。給食開始日の始業日がありますね。何日か短縮があります、それを減らして給食の日数を増やしていこうとすることで、2日間は増やしていこうという形でやっています。

ただし、トータルで授業日数は休日の関係で変わってまいりますので、一概にそこは増えた、減ったということで、合計の日数だけで言うと違ってしまう場合がありますので、ご理解いただきたいと思えます。以上です。

総務部長　防災行政無線のお話でしたが、稲荷町に限らず、ほかでも大分新しく住宅が建ったりいたしまして、聞き取りづらいというお話もいただいております。今、ご要望のあった地域について、受信の状況、音の状況の調査をすることで動いておりますけれども、最近の住宅は、かなり密閉度が高いものですから、通常で冷房、暖房をお使いになっていると、しっかり閉まっていますと、ちょっと情報が届きにくいという状況もございまして、防災行政無線だけではなくて、携帯電話等の防災情報を出す方法であるとか、この間の地震の際に、エリアメールという形でかなり皆さんの携帯電話が鳴ったかと思えますけれども、ああいった情報伝達の方法も含めまして考えていきたいと考えております。

あと、井戸の関係のお話がありましたけれども、地域にもよりますけれども、川越市でもかなり地下水がふんだんにございますので、川越市は小学校だったと思いますが、防災用井戸、先ほどお話しございましたけれども、そのまま飲み水にはなりづらい部分がございますけれども、かなりの部分で井戸を掘ってございます。その辺はメンテナンスをしながら、あと水質等を調べながら、維持をしておりますので、また必要な分を確認をしながら、そういった部分もできればと考えております。

市民部長 防犯灯の関係ですけれども、防犯灯は今市内に2万灯ございます。新規に防犯灯を設置したいという要望がある場合には、自治会内で検討していただいて、自治会長さんが市に申込書を出していただいて、市のほうで現状を把握した上で設置させていただくという形になっておりますので、自治会のほうでぜひご議論していただいて、要望書を出していただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

市長 縁石が目立つような工夫というのも、それほど難しい問題ではないと思いますので、具体的にここというご指定でご要望いただければ、対応できるはずですよ。

《道路整備、雨水対策、熱中症対策の放送内容、生徒児童の熱中症対策、学校における環境に配慮した鉛筆の使用》

意見 4点ほどありますけれども、通学路等広がったのはいいんですけれども、このところがカーブが多くて、逆に広がったことで車がスピードを出して走ってくる、ちょっと子供たちが登校するときに怖いことになったことがあります。ただ単に、すべての道路を広くするだけではなく、本当に寺尾の場合、生活道路でそこまで広くしてしまう必要がいいのかなというところが広がっているかなと私は思っています。

これは寺尾だけではなくて、ほかの川越全体的に本当に必要かどうかというところ、土地の方たちの半分はもらえれば、それで通るといような話もちらっと聞きました。だから、農道をちょっとうまく活用して、車のすれ違うところのすれ違う回数を少し減らすような、そういうような工夫をして、すべての道路を拡大することだけを考えるのではなく、いいところをお互いにうまく農道のよさとか、狭い道のよさとか、そういったものを考慮しながらしていただきたいと思います。

それから、通学路の件ですが、寺尾の場合は、先日、大雨の後にプールになるところが何カ所かあるんですね。1カ所だけは、この間、下水道の方が来て、写真等を写して持ち帰っていただいたんですが、1カ所だけではないので、もう少しその辺考慮していただきたいと思いました。

それから、先ほどの防災放送無線なんですけど、市長さんが人命第一ということで、

熱中症対策の放送がよく流れてきているんですけども、私も保健推進委員をしていた立場で、保健センターには申し入れしてあるんですが、対策として、クーラー、扇風機をつけてという、あれを第1に入れられてしまいますと、温暖化が逆に進んで、熱中症になりやすい日が増えてしまうので、その辺、のどがかわく前に水を飲んで、あるいは風通しのいいところというような、放送の仕方をちょっと工夫していくようにしていただきたいと思います。

というのは、熱中症対策はできたけれども、自分で考える能力がなくなって、このときは自分としたら、扇風機、クーラーつけたほうがいいのかという、考える力も、いろんな方に聞くと、放送があったら、はい、扇風機つけました、クーラーつけましたと言っているお元気な方たちもいらしたので、そうなると、本末転倒になってしまわないかなということをやっと懸念しております。

それから、学校の登校の帽子、あれに今進んでいる市町村では、紫外線対策で首の後にひらひらするような布をつけたものを着用させるようにご指導があります。先日、小学校の運動会を見せていただいたんですが、かなり前の日まで温度が低かったのが、その日晴れて、非常に運動会日よりかなと思う反面、かなり暑い日だったので、早くに帽子を着用していただきたいなと思ひまして、ちょっと先生にお伝えしたら、なかなか着用する様子がなく、指示は出してありますということだったんですが、その後、環境ネットのほうの総会の後の懇親会に行きまして、そんな話をしましたところ、隣の学校は校長先生が、かぶってない学年はどこどこがあるから、すぐかぶるようにとご指導あったというようなお話を聞きまして、やはりその辺のこともできましたら、教育委員会からトップダウンではないですが、ご指導をいただけたらいいかなと思います。

それとあと、環境関係に関してなんですが、入学時にできたら、鉛筆に塗料の使っていない、塗装していないような鉛筆、自然に配慮したような学習用具を入学時から購入する方向にご指導いただきたいと思います。それから、買いかえるときには、そういうことも考えてというようなことを、川越市内の小・中学校等、広めていただけたらと思います。以上です。

市長 通学路の問題につきましては、いろいろ問題もございますので、例えば警察と制限速度を下げてもらおうとか、そういうような工夫もしていきたいと考えています。

それから、水たまりができてしまう歩道については、またご要望という形を具体的に指示していただければ、対応できると思います。

あと、熱中症対策防止の問題等についても、きめ細かい対応ができるように努力し

ていきたいと思いますが、教育委員会のほうでは何かありますか。

学校教育部長 学校のいろいろな対応がありますけれども、先日の校長会においても、適切に温度に応じて水を補給すること、着帽するような話、個々によって大分状況が違いますので、一概に申し上げられませんので、そうした配慮を十分するようということで、例年やっているわけですけれども、今後、そうしたことに留意していきたいと思います。

あとは、自然に配慮していくという部分では、鉛筆の正しい持ち方と、いろいろ物があるのですけれども、いろいろな部分で、それは一概には言えないので、そうした部分については、姿勢の問題だとか、また正しい字を正しく書くために、小学生では鉛筆を使って字を書くような指導をしていますけれども、そうした点も含めて、また考えていきたいと思います。

市長 本日は、いろいろ貴重なご意見を頂戴しまして、本当にありがとうございます。

今後とも、市民意見箱という方法もございますし、あるいはメールというような形で、ご要望やご意見を出していただくのも構いませんので、ぜひ皆様方、引き続き市の行政に対しまして関心を持ち続け、いろいろご指導をいただきたい考えますので、よろしくお願い申し上げます。どうもありがとうございました。